

書写の授業Q&A その2

山梨大学教授 宮澤 正明

Q 「中学校では、国語科書写の授業時数が少なく、本来の目標を達成することが難しい状況です。何かよい方法や工夫はないものでしょうか。」

前回は、書写と書く活動とをリンクさせて、少ない書写の授業数や内容を膨らませる方策を提案しました。今回は、さらに具体的な方法を考えてみます。

中学生にとって、文字を書く活動は、学校生活の中心を占めています。しかし、文字を書くたびに書写の学習を思い浮かべる生徒はほとんどいないでしょう。そこで、書写の日常化を図るために、学校生活におけるあらゆる場面での「声かけ運動」を提案します。

○重要な語句や人名などが出てきたときは、注目させてゆつくり大きく板書し、ノートに写させるときは

「この部分は特に重要なので、筆ペンやフェルトペンを使って大きく書いてみよう。」

と声をかけます。筆記具が変わること、他の文字より大きく書く

ことで、意識が高まり集中して丁寧に書くことにつながると考えます。

○長い文章などを書いたり写したりするときは

「漢字が全面に浮かんでくるように、漢字を大きく平仮名を小さく書いてみよう。」

と声をかけます。文字の大小に意識を働かせるだけで、文・文章が読みやすくなることを実感すると同時に、漢字と仮名が調和して全体が整い見えることに気づくはずですよ。

○テストや提出物などに記入するときは

「採点者や読んでくれる人に読み間違いが無いように、丁寧に正確に書く。まずは自分の氏名を自信を持って力強く書いてみよう。」

と声をかけます。文字を適当に書く生徒の多くは、解答や主張に自信がないようです。まずは、間違いようがない自分の名前を自己主張するかのように書くことから始めます。また、たとえ解答が間違っていたとしても、主張が脆弱なものであったとしても、自信に満ちあふれた力強い筆跡は意志力、判断力、決断力といった、将来に向けての生きる力に結びついていくものと思います。

指導者が、手で文字を書くことの意義を十分理解し、生徒の書写力向上を願う気持ちがあればできないことですが、これらの声かけは、ほんのわずかな時間で済むことです。また共通理解のもと、学校全体で取り組み、かなりの効果が望めるはずですよ。ぜひ、試してみてください。

〈最近の中学校国語科書写の授業実施調査の動向から〉

昨年は、高校社会科の未履修の問題やいじめによる自殺者が急

増するなど、学校教育での問題が社会問題としてクローズアップされました。その渦中、中学校国語科書写も「学習指導要領に示された時間数が守られていないのではないか」「毛筆を用いた書写の学習が行われていないのではないか」という疑念が保護者から起り、昨秋頃から全国各地の教育委員会による実態調査が行われ始めているようです。それらの調査結果はすでに報告されているところもあるようですが、必ずしも満足のいく授業数や学習指導内容が行われているとは言えない結果が出ているようです。その背景には、

○国語科の総時間数そのものが少なくなった現行の学習指導要領では、書写の授業を割愛せざるを得ない。

○指導者の毛筆の技術力が不足しているため、書写の授業を敬遠する傾向がある。

などの理由が挙げられるようです。

また、授業数はある程度確保されているものの、授業がうまく機能しない、必ずしも学習指導要領通りの授業内容になっていないなどのケースもあるようです。具体的には次のようなことです。

○毛筆の学習では、書写用具の準備・後始末等に手間や時間がかかりすぎて、授業内容が乏しくなる。したがって、毛筆の学習時間をできれば減らしたい。

○書き初めの練習を書写の授業時間数にあてている。

○新出漢字の指導等で、書写の内容を加味しているの、その分を書写の授業数にあてている。

これらのことは、警鐘を鳴らす意味で、示唆的ではありませんが本コーナーで幾たびか取り上げてきた内容でした。これらの実態が現実のこととして浮き彫りにされてきたことは、とても残

念に思います。しかし、中学校の実情を考えたとき、とても指導に当たる先生方を非難する気にはなれません。むしろ、同情的な立場に立ちます。というのは、

○大学で中学校国語科教員免許を取得する上で、国語科書写に関する科目の単位が完全必修になっていないこと。

○初任者研修等で国語科書写に関する研修が十分に実施されていないこと。

○研究授業等で国語科書写の研究授業がほとんど取り上げられないこと。

○高校入試で国語科書写の内容に関する出題がきわめて少ないこと。

○国語科書写が、毛筆技能のみの学習と捉えられて、総合的国語力との関連が考えられていないこと。

○国語科書写の学習を通して、書写力・国語力だけでなく他のどのような学力が期待できるかが考慮・配慮されていないこと。

などの理由から、中学校国語科書写の授業を行う上で、書写学習の意義や系統的学習指導内容が十分に理解されていないところで適切な書写の授業が成立するわけがないからです。指導者にも、明確な指導目的や動機づけがなければ、いくら授業数が不足しているから実施せよと言っても難しいと思われれます。

社会生活で文字を書くことが減少したからと言って、文字を覚え書く学習途上にある生徒から、書写力を向上させる学習機会を奪ってはなりません。国語科書写の意義を明確にし、適切な授業方法が実施できる指導者の育成、研修が恒常的に行われるシステム作りが緊急に必要なことと思われれます。